

パネルディスカッション3

「－治療適応；内科・外科の立場から－炎症性腸疾患 UC」

司会 高山 哲治（徳島大学大学院医歯薬学研究部消化器内科学）

石原 聡一郎（東京大学医学部腫瘍外科）

潰瘍性大腸炎（UC）の患者は増加傾向にあるが、様々な新しい生物学的製剤の出現により内科的治療の成績は向上している。その結果、難治例や重症例の外科的治療は減少しているが、長期経過例の増加に伴い癌や dysplasia の手術症例が増加しつつある。さらに、UC 合併腫瘍に対する内視鏡治療の適応についても議論されている。このように UC に対する内科治療、外科治療のスペクトラムは変化しつつあり、本パネルディスカッションでは今後より一層重要になる内科と外科の連携を踏まえた治療のあり方について議論を行いたい。